

芽室町農業振興計画策定検討会議 第3回新戦略部会

日時：令和2年2月26日（水）14:00～15:30

場所：芽室駅前プラザ 3階レファレンス

【出席者】

鈴木部会長、畠山副部会長、飯島部会員、鈴木部会員、葛西部会員

【欠席者】

藤井部会員、飛田部会員、平石部会員

【事務局】

佐々木課長補佐、河内主査、水野

次第1 開会

次第2 部会長挨拶

鈴木部会長）大変な時期だが、15時半にとらわれず、終わり次第直ぐに解散できるような形で進めたい。

検討分野に係る計画素案について、資料1、検討項目1について事務局から説明。

鈴木部会長）では、「検討項目1」についてご意見ご質問等はないか。

飯島部会員）町の食育・食農推進活動について、農林課の方は農業の応援団づくりで色々な行事を行う中で、参加者が固定しているとのことだが、一般募集条件を年齢層に対してどこに絞るか、もしくは参加者が足りていないということで見直しをかけたいのか。それとも、部会の中で参加者のターゲットを絞り、イベントとか行事をやる方向を求めているのか。

佐々木補佐）特段、年齢層だとかターゲットをどこに定めるということは考えていないが、現状として同じような人が毎年参加し、幅が広がらないので、そういった意味で見直しが必要とは思っている。また、バスツアーでは年配の方が多く、若い世代は少し増えて欲しいと考えている。

飯島部会員）役場のHPを見て、めむろ農業小学校の項目があったが、開いてみると応募要領のみの記載であった。課の情報の発信の仕方を変えないことには、行政が一貫のことしかやっていないと受け止めかねないので、取組の外部への発信方法をまず工夫したほうがいいのではないかと。方法としては、HP上で食育の取組を挙げるページを別に作ってPRしたほうが、わかりやすい。ターゲット絞るなら保護者のみ、子供のみと絞った方がよいのでは。

佐々木補佐) 了解した。事業が終わった時に係内でも話し合ったが、周知・応募の工夫が必要。特に農業小学校は応募の段階である程度これまで活動の内容、写真などをアップしたい。バスツアーも、視覚的に良いものである事を伝えたい。公表して良いのか問題もあるが、参加者の了解をとる形でなんとかHP上にアップしてある程度写真を載せたい。

飯島部会員) 実行する時に曜日の設定が非常に重要になる。土日か平日かでターゲットが自然と絞られる。土日は小中学生は少年団等がある、と考えた場合にいかに参加してもらうか、呼び水を作らなくてはならない。イベントでは集客力がつきものなので、企画を練ったほうがよい。また、課題(1)の取組③他分野との連携だが、今まで連携がなかったのか。それぞれのやり方でやっていたのか？

佐々木補佐) 農林課の実施しているバスツアーだとかについては特段観光の分野と連携してやっていない。バスツアーの昼食として嵐山で地産地消ランチをとっているが、観光から外部に発信してはいない。来年度からバスツアーや食育講演会を外部に委託して実施しようという話を、予算を要求しており、その中でSNSも取り込んで外部に発信・実施をしたいと思っている。

飯島部会員) 人の集まる所に組み込むのも一つの方法だと思う。効力はわからないが、めむろまるごと給食を、町内外に向けて愛菜屋で提供する等。まちなかマルシェの様なイベントを利用するのが一番身近でいい形なのではないか。

鈴木部会長) バスツアーはいつ頃実施なのか。

水野) 9月に行っている。

鈴木部会長) 8月上旬に愛菜屋のスイートコーンまつりがある。地産地消バスツアーのチラシを配布してみてはどうか。イベント日はお客さんが多いので宣伝になると思う。時間帯によっては若いお母さんも来ている。農業小学校の募集についても、愛菜屋にチラシを置くことは問題ないと思う。例えば、地産地消バスツアー2回のうち1回を親子連れ限定にするのは可能なのか。

佐々木補佐) 実績では親子連れ1〜2組くらいしか参加していない。限定してどこまで集まるのかはわからない。

鈴木部会長) 土曜日は幼稚園も保育園も認定こども園も開園しているが、日曜日はどちらも休み。日曜日に芽室の保育園に限定して親子連れを募集するのも一つの方法ではないか。平日は固定化したお客さんでも仕方ない。園児連れのお母さんを対象に募集してもいいのではないか。お母さん同士誘い合うと思うので、方法を考えてもらいたい。

鈴木部会員) 現状での各食育・食農活動がこの課題を目指す姿だと思う。最終ミッションは、食育食農活動参加者が増加するためにやっている。地産地消の意識を浸透させるために取り組んでいるが、手法は

今のまま行っていて、固定化しているとか手詰まりになっているのが現況だと思う。このメニューにこだわり、活動参加者を増やす議論なのか、もしくは何かをまとめるだとか、これ以外の新しいものをやるのか、数を打つよりも選択、集中して大きいもので勝負するのかも、戦略の一つだともう。固定概念で既存のメニューを1.1～1.2倍増しするのは厳しいので、事業を無くすのでなく何かと何かを掛け合わせたらいいと思う。たとえば今の話だと、バスツアーを2回やって色の違うものにしようとか、いつも通りの物でもちょっとメニューを変えてもう少し呼び水を上げて、PRを強化しようというのも簡単だが、このメニューでひたすらこだわり続ける、とした時にみんなが楽しめる企画にしたほうが、このミッションで参加者増加及び地産地消応援団も増加するんじゃないか。新戦略としての部会なので議論としては前年踏襲じゃないほうがいいのではないかな。

佐々木補佐) 農林課としてもこのメニューだけをこだわってやってくというわけでは特に無い。現状のメニューを進めていくところで、まだ改善の余地はあると思っている。取り組みのなかで合体することによって、面白いものになったりするものがあると思うので、こういったご意見があったら取り組んでいきたい。

鈴木部会員) 食育講演会に参加したが、他とよく繋がらなかった。もし繋がると、食育講演会をする意義も相乗効果でわかってきて楽しいとなる。若い芽室の町民や移住しようという人に例えばまると給食を一回食べてもらい、美味しさを知ってもらう事で芽室で子供を産んで学校に行かせたい等、事業を掛け合わせたほうがいいのではないかな。飛び道具的な手法をやっても、1～2年したらまた元に戻り、マンネリ化すると思う。中長期的に5～10年後も子供たちの未来を考えたほうがおもしろいのではないかな。食育講演会も単体でもいいが、毎年同じ参加者になると思う。例えば、バスツアーでバスの中で講演を行う、現地で講演を行う、など。そこにプラスアルファの面白さや発見があると思う。

鈴木部会長)

若いお母さんたちに参加してもらおうとすると「どのようなこと希望しますか？」と、これからの人たちに問いかけていただきたい。めむろまると給食等も知らないお母さんに説明する事も出来ると思う。

佐々木補佐) まると給食は地物の野菜を使うという関係で教育委員会と協力している。実施の主体が教育委員会となっており、一存では色々な事ができるわけではないが農林課として地場産の食材を提供している関係である。食育講演会とバスツアーに関してはセットで2回行う等波及効果を出す形を初年度からは難しいとは思いますが、検討したい。

葛西部会員) この素案自体の意見はそのまま構わないが、資料に記載していない中で、今までの意見を踏まえて取組を進めていくのであれば、「PDCAを回す」という観点からある程度内部での明確な目標、到達目標を持ってもらえればと思う。例えば今回の課題(1)であれば、新規の参加者をどの程度増やすつもりなのか、こういった参加者を増やすのかというような目標があると、途中で必ず評価をして見直していくと思うので、到達目標に対して見直しの時期に、なぜ到達出来たのか、出来なかったのか、出来ない理由は何で、今後どうすれば到達できるのか、という事が見えてくるのではないかな。課題(2)

指導者の確保が難しいとなると、今後指導者を何名新しく確保するつもりなのか、もしくはこういった分野の人を確保するつもりなのかというのが必要だと思う。課題（3）77%の高い（地産地消の）意識を持っているということだが、残り23%を少しでも上げる時に、まず何パーセントを目標として挙げていくのか。その時の対象者をこういった方を重点的に挙げていくのかがあるといいと思う。

それを踏まえると課題（3）の取組（2）の意識調査の手法というものの、おのずとある程度の質問形式というものは、意識をすれば出てくる。単に意識しているかではなくて、こういった層の方が意識していて、こういった層の方が不十分な層なのか、それがわかればその層に取り込む為にどういう対応をするのかが見えてくる。ぜひそういった事を意識して取り組んでほしい。

佐々木補佐）事務局の中でも、やはり目標値は持つべきだろうとは結果として出ている。ただ、新たに調査だとかをかけて、把握する数値でなく、ある程度今までもつかんでいた数値、なるべく負荷が掛からない様な形で目標値を設定できればと思う。計画は8年間で、4年目は中間年の見直しなので、中間年と目標年の数値を持たなくてはどう思う。

鈴木部会長）次に課題2食農教育の指導者不足について意見、質問はあるか。

飯島部会員）指導者は現役の農業者ということで、所帯を持って忙しい中の年代なのか、若干余裕のある年代なのか、今まではどういう年代の方が指導者だったのか。

鈴木部会長）上伏古青年部が、農業小学校の教師役。一番上が35歳。その青年部が今回で降りるということ。青年部自体も合併が行われていて、範囲の幅は広いが人数はあまり多くないので、どこの青年部へも頼む事にはいかない。普段の管理作業は美生に畑があるので、その地域の老人クラブの方達が月1回管理をしている。農業小学校開催日は月1回土曜日の午前中。4月中旬から始まり、12月に終了式と収穫した野菜で調理実習。年8回行う。

畠山部会員）聞いた話だが、農業小学校の当日と前日から準備が始まるので、1回の授業につき計二日準備にかかる。上伏古に住んでいる人は美生まで赴いて、機械等を運ばなければいけない。雨が降り、延期もあるのか。

水野）延期はあるが、畑の状態を見て次の日の日曜日に出来る様なら作業を行う。

畠山部会員）拘束時間が長いから難しい。中伏古地域の青年部では南小学校に赴いて同じような事をやったが、年3回〜4回くらいの頻度。そこまで苦労はしなかった。教える生徒も南小学校区域なのでほぼ農家の子供であったがそれでも喜ばれた。農業小学校自体はすばらしい試みだと思うが、やり方をもう少し簡素化できないかなという気はする。

葛西部会員）引き受け手を増やすためには、負担を減らさないと厳しい気がする。

鈴木部会長) 今、農林課としては色々な団体にここの指導者となってほしいと打診しているのか。

佐々木補佐) 当初はじめて時は、普及センターのOBの方が芽室にいた方で、その方が中心となってやっていたが、何年かして上伏古の支部の方から食育だとか食農教育の取り組みをやりたいと、農林課に問いかけがあり、農業小学校をずっと一緒にやってきた。今年度をもって支部が来年統合されるので、統合後も指導者として協議をしてきたが、難しいということ。引き続きメンバーの中では、個人的にはやると言っている人もいて、その方を中心にして、ある程度何年かは新しく入った方とノウハウを共有しながら行い、ゆくゆくは農業小学校の指導者として有志という形になっていくと思う。当初、青年部の本体に頼んだが、難しいと断られた。個人的に声がけし、各団体をお願いしている最中。引き続き団体などには、説明する事をしたい。

畠山部会員) やはり、引き受けが難しい理由というのは、負担が大きいからなのか、それ以外の理由があって難しいのか。

佐々木補佐) 負担が大きいからだと思う。実際に回数を減らす等縮小を検討している。今、上伏古の支部行っている実態としては、二クラスに分けて担任役の青年をつけている。その担任役の青年はほぼ毎回来ている状況。ある程度、青年が交替で来て、毎回来なくても運営できる形にしていきたい。

葛西部会員) 引き受け手がいないのであれば、どうすれば引き受けてくれるのか、負担をどこまで減らせれば参加してもらえるのか、そんなところになってしまうのではないか。

佐々木補佐) 負担になっているものを減らす事が必要なのかもしれない。

鈴木部会長) ただ、感じ方は個人個人で差がある。たとえば、一方が負担でなくてももう一方には負担という事もある。一応、この農業小学校の指導者については愛菜屋のほうにも打診していて、愛菜屋側としては、愛菜屋が生産者ですという事を謳った上で農業小学校手伝いたいという方向性で動いている。役員だけではなく、会員のほうからも何とか手伝ってもらえるようにすれば、会員も100人くらいおり、中には70～80歳の高齢者もいる。高齢者はずっと手作業で仕事をしてきているので、生産者世代でなくても大丈夫ではないのか。

佐々木補佐) 当然年配の方は全くダメというのは無い。ただし、今までやってきた中で現役の農業生産者の方と児童が直接触れ合って、色んな現場の苦労話や、思いを聞いたりするのをコンセプトの一つにあって、出来れば若い現役生産者という部分がある。

鈴木部会長) 出来れば若い青年者に自分で納得して教えてくという意味で、子供たちに農業を教えていくというのは大事な事だと事だと思う。とりあえず上伏古の青年は何人か残るので上伏古青年を主にして愛菜屋がサポートしてく体制でよいと思うがいつまでもそういうわけにはいかない。指導者になった人がそんなに負担なく楽しんでやるものを探していくのが一番だと思う。子供と指導者が楽しいのが一

番。

葛西部会員) その当日のサポートは担任の先生だけか。

鈴木部会長) 当日のサポートを農業者が何人かでしている。その何人かの農業者の中で教頭と担任の先生の役を決めて、毎回10人くらいの青年が指導しているが、1回につき10人というのは厳しい。あと2回位減ったらだいぶ楽になると思う。

葛西部会員) もしくはそのサポートスタッフが農業者でなくてはならないのか

佐々木補佐) 昨年、上伏古の方々と色々話をし、どうやったら負荷が減るのか検討したが、実際に一回出てくる人数が減って交代制になると良い。という意見はあった。ただ、子供たちのサポートの人数が減ると厳しいと思う。芽室高校のボランティア部にも打診したが人数の関係で断られた。また、近隣の高校、大学にも打診したが断られた。

鈴木部会長) 帯広コア専門学校はボランティアを行っており、とてもいい学校。何年も前に芽室でやったB級グルメのボランティアには、快く参加してくれた。

畠山部会員) 親が来て様子を見たりしている様子はあるのか？

水野主事) 実際に畑に入りたい方は一緒に畑に入ってもらっている。

畠山部会員) であれば、親が子供たちを見てくれるのでは？

鈴木部会長) 余りにも人数が足りなかったら、親が1回につき何人かで出てもらうっていう形をとってもいいかもしれない。ただこの食農教育のPRもこのまま進めていってほしいと思う。

鈴木部会長) 次に課題3について、意見質問はあるか。

葛西部会員) 施策の方向性：住民の意識調査の方法や問いかけについて検証するというのがあるが、この意識調査というのは先ほど話した4年に一度のことか

佐々木補佐) 地産地消を意識している調査の割合が77%というのは、総合計画の目標値に対して捉えるために毎年実施しているアンケート調査というものなのでそれを活用しようとしているので毎年のものになる。

葛西部会員) その年のアンケート調査自体を振り返ることが出来る、という理解でいいか。それとも、そ

の方式は 毎年の質問項目は変えようがないという事か。

佐々木補佐) 質問内容の変更でき、追加もできる。ただ他部署の質問も一括で質問しているのであまり多くはできない。

鈴木部会長) 野菜に関してはダイイチ、愛菜屋、Aコープで芽室産の物は買えると思うが、他の物は中々地場産の物は手に入らない。芽室産にこだわってるのか。例えば、牛乳ならよつ葉の牛乳だとか、チーズは明治だと考えてるのか。

佐々木補佐) 質問の形式が地産地消を意識しているというのが難しい。ある程度広く捉えるような聞き方をしているのでどういう風に捉えて回答してるのかという部分はあると思う。ただ、道内産として余りに広く捉えている人はいないのではと農林課としては考えている。広くても十勝産だろう。今、スーパーでも地場産のコーナーもあり、ある程度芽室町内産だと意識しているのではないかな。

葛西部会員) 質問のボリュームを増やす必要はないと思うが、取組のある意味で課題をあぶりだせるような質問を考えになるのであれば、もっと具体的に深掘り出来る様な実態を捉えるような方法が必要だと思う。

佐々木補佐) 農林水産省情報交流ネットワーク事業の地方調査というのがあり、地場産の購入状況という所では、だいたい4割ぐらい。若干古い数字ではあるが芽室町のほうが意識されていると思う。

鈴木部会員) 質問の仕方が芽室町民は地産地消を意識してますかという聞き方で、実は気を付けてないけど一応これは気を付けてますと言おう。というのに近いような票がある気がする、むしろ4割の数値が低すぎる気がする。

鈴木部会長) 例えば芽室産の農産物を売っている店を全部挙げて知っている所に○をつけてもらう等。その名前出るだけで町民も意識するのでは。

佐々木補佐) 質問の聞き方については引き続き検討はしたい。

鈴木部会員) この一週間で芽室町のこういうものを食べたかどうかとか、というのでもパーセント上ではわからないが、推移で上下するので、出来るのではないかな。イエスカノーかの質問はいいと思う。意識より事実のほうが面白いのではないかな。他の自治体でも同じ質問で共有化してやってみた方が面白いと思う。競争したり切磋琢磨したりすると思う。比較しても数値が高いとか低いとか断言できる。

鈴木部会長) 課題3についてはよろしいか。次に検討項目2に移りたいと思う。

事務局から検討項目2について説明

鈴木部会長) 御意見御質問はあるか。

飯島部会員) 町としては、ハード面を共有化してソフト面をそれぞれで開発せよ。と捉えていいか。仕組みは作るが中身はでそれぞれで行うということか。

佐々木補佐) 今の状況は、6次産業化の取組や相談は今の段階で年に1、2件しかない。今のハードの整備をその状況に行うのは難しい。主に6次化の国等の補助制度の周知やセミナーの開催は、取り組んでいきたいと思っている。補助を受けるにしても市町村の戦略が策定されていて、市町村戦略に沿った取り組みでないと、補助率が上がらない。まず市町村戦市町村戦略を策定するところまで取り組みたい。町として特定の特産物の商品化を推し進める事は考えていない。

鈴木部会員) 前回の会議で出た、商品開発をする加工場は補助金を使って誘致するのか。

佐々木補佐) 作ると決めたわけではなく、問い合わせが少ない状況でハード面を整備すると言うのは中々難しい。まず制度や市町村戦略で形を定めている部分は整備したうえで、周知をし、6次化に取り組む人が増えてくれば、ハードの整備も出来るという風に考えている。

鈴木部会長) 市町村戦略はいつ頃までにどの様な形で作られる予定か。

佐々木補佐) いつ頃かは決まっていないが、将来像としては農業の振興計画で戦略を作ると謳い、それから策定していく。

鈴木部会長) 個人的な意見だが、もう遅いと思う。今スマート農業で自動操舵機械があるが、今はそちらの補助金がある。ポイントの高い農家でないと補助が採択されない。ポイントの高い農家は法人化していて農地が増やせて、というような農家である。やはり力やお金のある農家が補助金をかなり受けられる。新規就農者もそれを持っていれば農業が出来るが、買える金額ではない。

6次産業化も同じで、お金が無いからお金を稼ぎたいのにその練習する場所がないとなると遅いと思う。なので、道の審議委員会の時にはスマート農業に対しては農家が機械を買うための補助ではなく、機械を作る企業に対して、もっと安く買えるようなものを作る補助を出したほうがいいのではないか、という話になった。この6次化に関しても根本は一緒だと思う。今から戦略を定めて、この先どうなるのかという感じはするが、ただ、無いよりはあったほうがいいと思う。これからの若い農業者がそういう所に行くためにはあったほうがいいと思う。アンケート調査等を行うことによってやりたい人が出てくるかもしれない。

葛西部会員) 政策の方向性として環境整備という言葉が出てきているのは、要望があった時に芽室町で

は対応できない。というのではなく、ある程度の体制を作って流し込んでいながら最終的な所まで支援できる様に、町のみで支援するのではなく、他を巻き込みながら支援する為の体制をここで作ろうという意味合いなのか。

佐々木補佐) 町として、農家個々だとかで、突破出来ないとこの整備的な壁だとか構造的な問題がある。町としては取り払っていかねばいけない所である。戦略については、町が定めていないと補助率のかさ上げが無い事は問題なので町が整備し、補助率をとれるような形に整備していきたい。

鈴木部会長) 取組3や4が実施されるとよい。

葛西部会員) 取組3や4に関していえば、要望が芽室町内にどうしてもなければならないという事であれば、かなり色々なハードルが高いと思うが、そうでなければ例えば、私どもの持っている設備の食品加工技術センターを活用したり、町と申し合わせをして流し込んでもらうとか、専門知識の研修など食品加工技術センターを使って、うちの職員であつたり他の職員や町に紹介したりしながら研修を実施していく事が可能だと思う。そういったものを環境整備の中で検討されるといいと思う。

佐々木補佐) 町としては今、取組3のとおりで加工施設設置を検討すると書いてあるが、現状を見た時、単独で6次化の為に設備しますは厳しいところがある。
何か他の部分と兼用だとか何とか出来ないのか検討していく。単純に6次化の為に専用施設を作りますといった時にはおそらく、年間1~2件の相談件数だと厳しい。

鈴木部会長) 例えば、街の駅の下にある調理室で、弁当の製造・販売をしていると聞いた。その施設が飲食店許可等があれば、そこで商品開発をして、誰かに食べてもらうことが可能になると思う。

佐々木補佐) 現状の施設が活用できたらいいと思う。

葛西部会員) 商品開発の施設と販売のできる施設は別物で、開発と販売ができる施設だとより良いと思う。私どもの施設では開発のみができるので販売許可の施設については町のほうで検討してほしい。

鈴木部会長) 商品開発のみの施設か、販売許可が必要な施設が必要かどうかはアンケートをとると要望がわかるのではないかな。

畠山部会員) 施設を建てるにしろ、6次産業化に携わる人のみの施設だと、他の町民の不満があると思う。農業に携わっていない人も多い。

鈴木部会員) 私はどちらかというと商工業の立場だが、農業と商工業を結びつけるという意味では良いと思う。施設がないから問い合わせが来ないのか、問い合わせが来ないから施設ができないのか。そこを検証しなければならないのではないかな。加工施設の規模、協力機関との連携を図る必要があるのでは。

鈴木部会長) 政策金融公庫の6次化についての説明会を受ける機会があったが、若い女性から年配の方まで熱心に聞いていた。芽室でも農政事務所等招いて講演会を行ったら、アンケート等取り易いのではないか。めむろ一どの街の駅に商品置かせてもらう等もいいと思う。どこまで準備するところまでできるといったような、チャートを作るのもよいと思う。補助率をあげる為の戦略を定めるのは大事だが、実施しやすい環境整えるのも大事だと思う。

鈴木部会長) ほかに何かないか。以上で審議を終了する。

4 その他 計画の記載項目について資料2を元に事務局から説明。→意見なし。

5 連絡事項 (1)次回部会開催予定について→新戦略部会は3月中の開催なし。
(2)農業振興計画検討委員会→部会長了承。

6 閉会